

母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—



第31号

2014 Winter



発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

予防接種はわが子のためのみならず、 世のため人のため！

目次：

予防接種はわが子 のためのみならず、 世のため人のため！	1	わが国の予防接種率は、先進国としては低いと言われており、南大阪の接種率はとくに低いことが問題視されています。どうして予防接種率が問題になるのでしょうか？
定期予防接種	2	
がんばり屋さん A. Yさん	3	
第4回きっずセミナー が開催されました	4	
新しい ファミリーハウスが オープンします		

1. 予防接種の目的は流行抑止		予防接種を受けることで、受けた本人は感染症を予防することができます。しかし、集団・地域で予防接種率が低いと感染症の「流行」を抑えることができません。たとえば麻疹（はしか）の場合、ある集団における流行を抑止するためには予防接種率が95%以上であることが必要と言われています。
2. 予防接種を受けたくても受けられない子どもたち		大阪府立母子保健総合医療センターには、様々な病気の子どもたちが通院、入院しています。病気の性質によっては、予防接種を受けたくても受けられない子どもたちがいることを忘れてはなりません。 予防接種を受けられない子ども達を守るためにはどうすればよいのでしょうか？はしかや風疹など感染症が流行しないようにすればよいのです。予防接種を受けられる子どもたちが、みんな予防接種を受けて下されば、流行を抑止できるのです。それが、予防接種を受けられない子どもたちを守ることになります。
3. 予防接種は安全です		予防接種に用いられるワクチンは、様々なお薬の中でも安全なお薬です。もちろん、副作用はゼロではありませんが、重篤な副作用の頻度は極めて低いので、予防接種を必要以上に怖がる必要はありません。また、万が一重篤な副作用が出現した場合には、厚生労働省の救済制度を利用できます。
4. 子どもに予防接種を受けさせましょう		次項の表は、定期予防接種をまとめたもの（子宮頸がんワクチン以外）です。定期予防接種だけでこれだけありますから、任意予防接種（おたふくかぜワクチン、インフルエンザワクチン、など）も受けるためには、スケジュール管理が大変です。最近では複数のワクチンを同時に受ける同時接種が行われるようになってきました。同時接種は単独接種と比べて副作用が多いわけではありませんし、その効果も同等と言われています。無理なく予防接種を受けるために、早い段階から計画しましょう。「ワクチンデビューは生後2ヵ月から」という標語を聞かれたことがあるかも知れませんね。困った時は保健センターが相談に応じてくれます。

「予防接種はわが子のためのみならず、世のため人のため！」です。
よろしく願い申し上げます。

（文責 院内感染防止対策委員会 井上 雅美）

定期予防接種

予防接種名	対象年齢	受け方
ヒブ	2か月～5歳未満	
小児用肺炎球菌	2か月～5歳未満	
BCG	1歳未満	標準的な接種期間は5～8か月未満
四種混合 (百日せき・ジフテリア・ 破傷風・ポリオ)	第一期 3か月～ 7歳6か月未満	
二種混合 (ジフテリア・破傷風)	第二期 11歳～13歳未満 標準対象学年小学6年生	乳幼児期に <u>三種混合または二種混合でジフテリアと破傷風の予防接種を3回以上接種している人が乳幼児期につけたジフテリアと破傷風の免疫を持続させるために接種します</u>
麻しん 風しん(MR)混合	第一期 1歳～2歳未満	麻しん(はしか)・風しん(三日はしか)にかかった人は、かかっていない方の病気のワクチンを接種することもできます
	第二期 小学校就学前の1年間 (年長児クラスに該当する人)	平成25年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日)は平成19年4月2日～平成20年4月1日生まれの人が対象で、年度内が接種期間です
日本脳炎	第一期 3歳～7歳6か月未満	
	第二期 9歳～13歳未満	

がんばり屋さん

A. Yさん

私にとって大阪府立母子保健総合医療センター（以下、母子医療センターと称する）とは、私自身を原点に回帰させてくれる場所、いつかは私もここで働きたいと思わせてくれる病院です。こう思えるのは、医師・看護師・コメディカルを含め多くの医療スタッフに私自身が支えられていたからだと思います。

私は552グラムで出生し、1年間を保育器で過ごしました。中学・高等学校時代は運動部に所属し仲間と一緒に汗を流し、その後は体育大学に進学し、現在は大阪府内の病院職員として勤務しています。



4歳半

「体が小さく生まれたのに、なんで体育大学に進学しようと思ったの？」私は大学生・社会人になり、この質問を受ける機会が多くなりました。

理由としては、まず中学・高校での保健の授業や体育実技の授業を通して体のことを深く知りたいと思うようになったからです。体育実技の授業では、周りよりも体力が少なく辛い思いをしたことは多々ありましたが逆に、肺疾患のある私でも周りと同じように体を動かさせられていることが本当に恵まれているのだと感じました。そこで、自分自身が幼いころ、体が弱くて可哀想だねと周りの大人に言われていたことが本当なのか、体が小さく生まれた子どもは可哀想なのかと疑問を抱いたため、自分自身の体で証明したいという気持ちが芽生えました。



1歳5ヶ月

実際に体育大学に進学してからは、今まで以上に体力のある仲間との運動だったため、初めは実技の授業についていくのが大変でした。しかし、授業を受け、練習を繰り返し、最後は課題を達成できたため、どの授業でも成長できている自分がそこには居ました。そう考えると私の大学生活は、課題を達成できて嬉しい!!という経験が多く、辛いこともありましたが、最後は、自分はこれだけ頑張ったと胸を張れるようになりました。

その他にも大学在学中に主治医から母子医療センターのホスピタル・プレイスを紹介してもらい、大学の長期休み中は、入院している子どもたちと一緒に遊ぶボランティアをさせて頂きました。朝から晩まで子どもと遊び、非常に充実した時間を過ごさせて頂きました。このボランティアで私は、多くの子どもや保護者と関わったことで、私も何か医療に貢献し病院で働きたいと感じるようになりました。

新生児医療・小児医療を取り巻く環境は多忙を極めていますが、母子医療センターで働いている医療スタッフは、患者に優しく・親切で・丁寧なスタッフが大勢いる病院だと私は感じます。大学を卒業し社会人になった今でも、私は母子医療センターにフラッと行きたくなることがあります。そう思えるのも私が主治医を始め多くの医療スタッフに支えられていたからだだと思います。主治医は今も昔と変わらず第二の父親として私を支えて下さり本当に、かけがえのない存在です。母子医療センターは私にとって、このような素晴らしい医療スタッフと共に一緒に働き、医療に貢献したいと思わせてくれる病院です。

A.Yさんのプロフィール

A.Yさんは、当センターにて24週554gで生まれました。人工換気療法を8ヶ月間、在宅酸素療法を4歳半まで行いました。肺の病気がありましたが、中学時代に卓球部、大学は体育系へ進学されました。小中学校時代に新生児科の超低出生体重児の学齢期総合検診に参加され、大学時代にはその検診を手伝っていただいた元気な女の子です。

(主治医より)

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健
総合医療センター



〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

TEL: 0725-56-1220 (代)

FAX: 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

第4回きつずセミナーが 開催されました



平成25年8月24日(土)
きつずセミナーが開催されました。

応募総数599人。抽選の結果、
270人の小中高生が参加され
ました。たくさんのご応募・ご参加を
いただき、ありがとうございました。
今年の夏休みも開催予定です。
詳細が決まりましたら、センター
ホームページなどでお知らせします。



(文責 企画調査室)

新しいファミリーハウスがオープンします



母子医療センターには、ファミリーハウスという施設があります。
これは小児がんなどの慢性疾患児の付添いをされるご家族の方が宿泊
されるための施設で、遠方から来られるご家族の負担軽減を図るため
にご利用いただいています。

この度、さらなる療養環境の充実や
負担軽減を目的として新築整備し、平成
26年3月のオープンをめざし、現在、
準備を進めています。

新しいファミリーハウスは、現在のファミリーハウスの隣に設置され、
地上3階建て、宿泊室はこれまでの倍となる12室(うち1部屋は車いす
対応)となっており、またダイニングキッチンや多目的室、PCラウンジ
など共用部も充実しています。

ご利用される方には、患者さんとご家族の団らんのかたちとして、また患者
さんのご家族同士での情報交換や、交流の場として、これまで以上に
活用していただきたいと考えています。利用について詳しいことが決まり
ましたら、改めてお知らせします。



(文責 総務・人事グループ)

大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- ・地域の保健医療機関と連携して母子保健医療を推進します。
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。